

ちゅうおう

第191号 2020年



長崎県中央振興局農林部 (中央家畜保健衛生所)

〒854-0063 長崎県諫早市貝津町3118

TEL 0957-25-1331 (代) (休日、夜間も携帯電話に転送されます)

FAX 0957-25-1332

E-mail 衛生課 : s34500@pref.nagasaki.lg.jp

防疫課 : s34510@pref.nagasaki.lg.jp

検査課 : s34520@pref.nagasaki.lg.jp

HP : <http://www.pref.nagasaki.jp/section/ko-chuokatiku/index.html>



目次

P2… 継続してASF(アフリカ豚熱)、CSF(豚熱)に最大の警戒をお願いします

P3… 飼養衛生管理基準が改正されました!

P4… 平成31年凍結精液利用状況について
害熱対策

P5… 家畜人工授精は疑義が生じないように!!
令和元年度病性鑑定実施状況について

P6… 適正なワクチン接種で異常産を予防しましょう!
職員紹介
お世話になりました

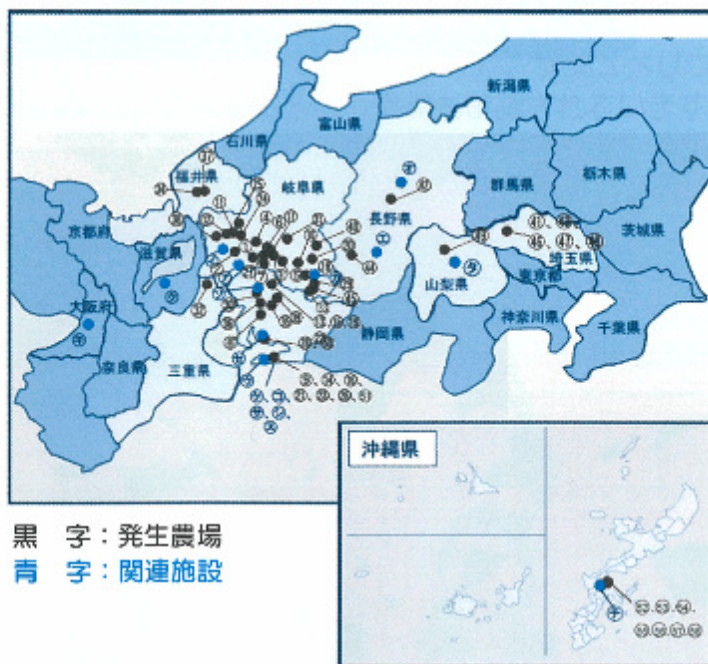
継続してASF(アフリカ豚熱)、CSF(豚熱)に最大の警戒をお願いします。

国内におけるCSFは、2018年9月から2020年3月まで8県58事例の発生があり、165,626頭の豚、イノシシが殺処分されています。また、野生イノシシにおいても関東・中部地方を中心に未だに感染が拡大しており、また、いつどこで発生してもおかしくない状況にあります。現在、CSFの感染が確認された地域及びその周辺の地域はワクチン接種推奨地域に設定され、予防的なワクチン接種により対策が進められていますが、今後も予断を許さない状況となっています。

一方、アジアでのASFは、現在までに11か国で発生が確認されています。韓国では9月17日の初発以降、飼養豚での14例発生に加え、野生イノシシで感染が拡大しています。さらに、日本国内の空港では、アジア等からの旅行者が畜産物を携行品として持ち込むケースが後を絶たず、日本国内へのウイルス侵入リスクは非常に高い状況です。

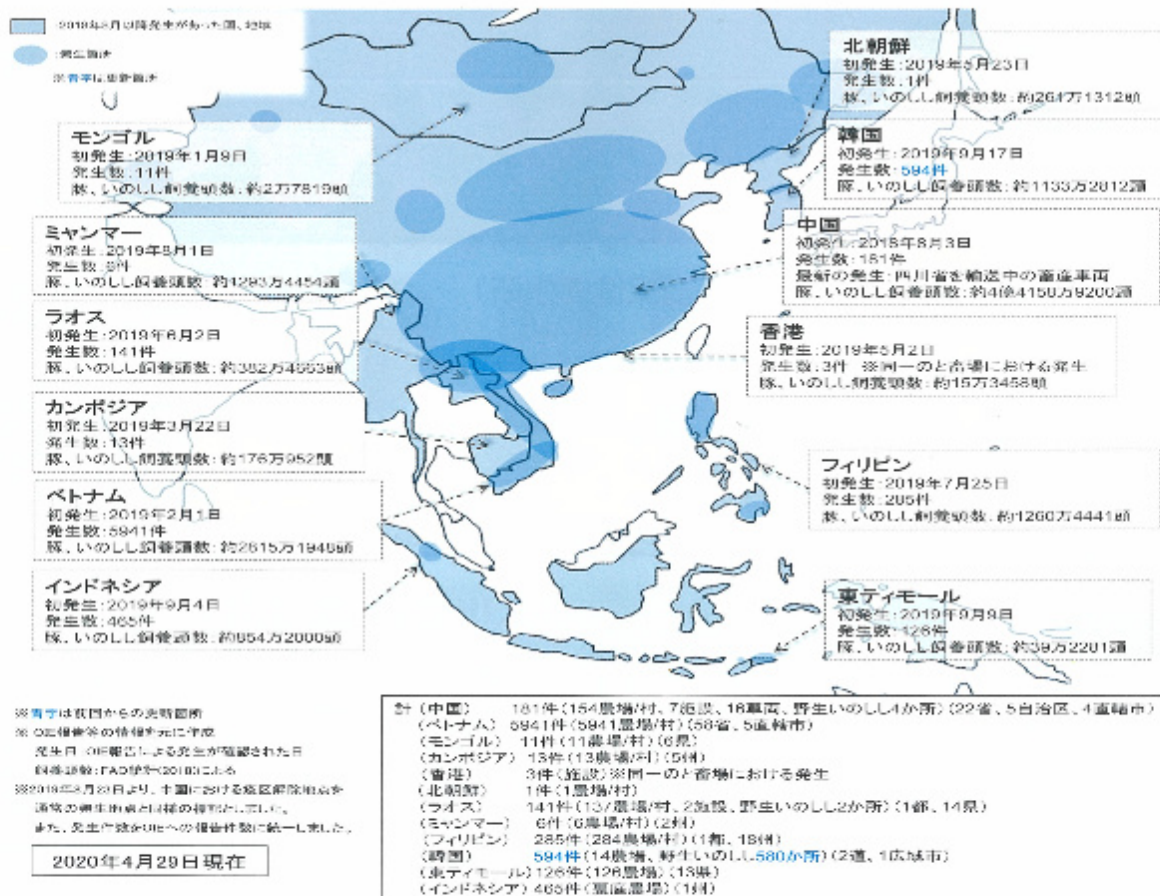
養豚農家の皆様におかれましては、すでに農場のすぐそばまでウイルスが迫っているという危機意識を強く持っていただき、農場へのウイルス侵入防止のため、飼養衛生管理基準遵守の徹底をお願いします。

国内におけるCSEの発生状況について



黒字：発生農場
青字：関連施設

アジアにおけるASFの発生状況について



飼養衛生管理基準が改正されました！

CSF（豚熱）、ASF（アフリカ豚熱）の発生リスクがこれまでになく高まっている状況を受け、令和2年3月9日、飼養衛生管理基準が改正され、より高いレベルの衛生管理が求められています。

今回の改正で新たに追加された項目を下線で示していますので、以下のポイントを参考に、適正な管理をお願いします。

飼養衛生管理区域を設定

（豚舎、たい肥舎、豚舎で使う道具の保管場所など、全てを含む）

畜舎等への野生動物侵入防止のためのネット等の設置（網目の大きさ2cm以下又は同等の効果を有するもの）

衛生管理区域内の整理整頓・消毒

豚舎のこまめな清掃・消毒

飼養衛生管理マニュアルの作成と従業員への周知

衛生管理区域への野生いのしし侵入防止のための防護柵の設置

作業動線の畜舎内外での交差汚染防止

衛生管理区域専用の長靴、服を着用
着脱前後の衣服及び靴は分離保管
更衣前後の経路は一方通行

豚舎に出入りする時は、
手指、長靴の洗浄、消毒

海外からの人や物は
下記の期間、農場内
に入れない
人：1週間
服・靴など：4か月

処理済の飼料を利用する場合、非加熱のものを衛生管理区域に持ち込んではいけません*

出入りする車両の消毒

農場専用フロアマットの
使用等により、交差
汚染を防止

猫などは、管理区域の
内側で飼わない

入場・消毒
記録表の作成及び保管

他者が入らないよう、飼養衛生管理区域を明確にする
（看板、カラーコーン、石灰帯などを設置）

※肉などを含むエコフィードの加熱条件：攪拌しながら90℃以上で60分以上

平成31年凍結精液利用状況について

中央家畜保健衛生所管内の平成31年凍結精液利用状況を集計しました。

種雄牛別利用状況ベスト10では、上位8頭が長崎県有種雄牛で、全体の8割以上のシェアを占めていました。

また、4年連続1位だった金太郎3を百合幸が僅差で上回りトップに、そして、昨年誕生した期待の「美津洋」が初登場で5位にランクインするといった結果となりました。

〔種雄牛別利用状況〕

順位	名号	変動 (昨年の順位)	所有者	授精回数	シェア (%)
1	百合幸	↑ (7)	長崎県(県有)	907	16.5
2	金太郎3	↓ (1)	長崎県(県有)	904	16.4
3	勝乃幸	↑ (6)	長崎県(県有)	716	13.0
4	弁慶3	↓ (2)	長崎県(県有)	699	12.7
5	美津洋	初登場	長崎県(県有)	597	10.8
6	平茂晴	↓ (3)	長崎県(県有)	554	10.1
7	隼勝忠	↓ (5)	長崎県(県有)	450	8.2
8	勝忠勝	↓ (4)	長崎県(県有)	275	5.0
9	若百合	↑ (39)	鹿児島県	268	4.9
10	美国桜	↓ (8)	鹿児島県	133	2.4

〔所有者別利用状況〕

所有者	授精回数	シェア (%)
長崎県(県有)	5,297	84.3
長崎県(個人)	9	0.1
鹿児島県	842	13.4
事業団	86	1.4
鳥取県	39	0.6
北海道	7	0.1
山形県	3	0.04
計	6,283	

暑熱対策

暑熱は家畜や家きんにストレスを与え、採食量の減退などから受胎率や産卵率の低下を引き起こし、生産性の阻害のみならず、熱中症という大事故につながります。例年、暑熱対策として、換気扇による送風、グリーンカーテン、屋根散水や消石灰散布などを紹介しています。今回は、昨年モデル農家において屋根への消石灰散布を実施し、その効果を下記のとおり取りまとめたので、特に肉用牛経営者の方々にはぜひ参考としてください。



★温度効果

外気温が30℃を超えた場合、消石灰乳塗布後の舎内温度は約2℃低下していました。

家畜人工授精は疑義が生じないように!!

先般から沖縄県や山口県において和牛の遺伝子不一致事例が発覚しており、家畜人工授精に対する信頼が揺らいでいます。

沖縄県の事例では、同一発情期間に異なる種雄牛の精液を授精したため、どの種雄牛の産子か分からなくなり、結果として異なる血統の子牛が市場に出荷されてしまいました。

このような事例を防止するため、黒毛和種等の和牛においては、和牛登録事務必携の「子牛登記取扱方法」により「同一発情期に授精する種雄牛は1頭のみとし、種雄牛が特定できるもの」となっています。したがって、同一発情期に複数回授精をする場合は、同じ種雄牛の精液を授精するようお願いします。

また、家畜人工授精に対する信頼を確保するため、精液証明書の実書の徹底、家畜人工授精簿への正確な記録、授精証明書等の適切な交付など家畜改良増殖法の遵守をお願いします。

令和元年度病性鑑定実施状況について

令和元年度は、乳用牛14件、肉用牛143件、豚118件、採卵鶏64件、肉用鶏49件、その他17件の合計405件の検査依頼がありました。主な疾病は下表のとおりでした。

乳用牛	牛RSウイルス病(1)、牛RSウイルスと牛コロナウイルスの混合感染症(1)、牛パスツレラ(マンヘミア)症(2)
肉用牛	ヨーネ病(法)(1)、牛白血病(届)(1)、牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症(3)、牛大腸菌症(3)、牛RSウイルスと牛パスツレラの混合感染症(1)、牛RSウイルスと牛コロナウイルスの混合感染症(1)、牛RSウイルスと牛ライノウイルスとパスツレラ・マルトシダの混合感染症(1)、牛パスツレラ症とマンヘミア・ヘモリティカと牛RSウイルスと牛PI3とライノウイルスの混合感染症(1)、牛マイコプラズマ肺炎(5)、ビートンウイルスの関与を疑う牛異常産(2)、ディアギュラウイルスの関与を疑う牛異常産(1)
豚	サルモネラ症(届)(3)、豚サルモネラ症と豚レンサ球菌症とヘモフィルス・パラスイス感染症(1)、豚大腸菌症(2)、浮腫病(4)、豚増殖性腸炎(2)、豚胸膜肺炎(2)、豚胸膜肺炎と豚パスツレラ症(1)、豚胸膜肺炎と豚繁殖・呼吸障害症候群(届)(1)、豚クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症(1)、ヘモフィルス・パラスイス感染症と滲出性表皮炎(1)、豚マイコプラズマ病とパスツレラ・マルトシダの混合感染症(1)
採卵鶏	鶏パスツレラ症、鶏コクシジウム病と鶏クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症と尿酸塩沈着症(1)
肉用鶏	サルモネラ症(届)(2)、鶏マイコプラズマ病(届)(2)、鶏大腸菌症と伝染性ファブリキウス癆病(届)(3)、鶏大腸菌症(4)、頭部腫脹症候群(伝染性気管支炎ウイルスの関与を疑う)(1)、鶏大腸菌症と鶏コクシジウム病とクロストリジウム・パーフリンゲンス感染症(1)、鶏封入体肝炎(7)、封入体肝炎とビタミンE欠乏症と低血糖症(1)、鶏壊疽性皮膚炎(2)、鶏コクシジウム病とクロストリジウム・パーフリンゲンス感染症(1)、真菌症(1)、ビタミンE欠乏症(1)

- ・家畜疾病の発生予防のため、農場へ出入りする人や車の消毒を徹底するなど、飼養衛生管理基準の遵守徹底をお願いします。
- ・例年、同じ農場における同じ疾病の病性鑑定依頼が複数事例ありますので、効果的な対策の取り組みもお願いします。

適正なワクチン接種で異常産を予防しましょう!

これからの季節、気温が上昇し暖かさが増してくると、牛や豚に異常産ウイルスを媒介する吸血昆虫が発生します。

牛については、平成31年度の県内の動向調査において、牛異常産関連ウイルス（流行性出血病ウイルス7型（EHDV-7）、アカバネウイルス（AKAV）、ピートンウイルス（PEAV）、サシュベリウイルス（SATV））の動きが確認されており、PEAVについては関与を疑う事例も確認されています。また、他県ではEHDV-7やAKAVが関与した事例も確認されています。

経産、未経産にかかわらず、全頭適正にワクチン接種を行い、異常産の発生防止に努めましょう。

職員紹介

所長



岩永 俊一

（中央振興局
農林部副部長）

衛生課（指導班）



衛生課長
清浦 邦彦



係長
早稲田 万大



非常勤
久松 美晴

（肉牛経営農班）



防疫課長
谷山 敦



専門幹
島田 善成



係長（副参事）
大曲 祥之



係長
岩永 政弘



獣医師
後田 徹志

防疫課

（養豚養鶏班）



専門幹
松田 廣志



主任技師
盛脇 義弘



主任技師
藤岡 芳幸

検査課（病性鑑定班）



検査課長
山本 賢一



係長
酒井 芳子



係長
横山 竜太



主任技師
浦川 了



主任技師
寺山 好美



主任技師
秦 祐介

長崎県畜産協会

中央支部
田浦 はづき

お世話になりました

- ・久住路 毅 → 吉岐家畜保健衛生所 衛生課長
- ・吉野 文彦 → 五島家畜衛生班 家畜衛生課 専門幹
- ・西武 直美 → 諫早食肉衛生検査所 主任技師
- ・溝口 泰正 → 退職
- ・山脇 義成 → 退職
- ・山口 雅之 → 退職

